

長井線の魅力伝える

白鷹 荒砥高生企画の沿線観光ツアー

運転士不足に伴い、減便が続くフラワー長井線を応援しようとして、白鷹町の荒砥高（石田充校長）の生徒が企画したツアーが4日、同町の荒砥駅周辺などで行われた。南陽市の赤湯駅から荒砥駅に向かう車内では、生徒が沿線の歴史や車窓から見える山や見どころなどを解説。観光客に長井線の魅力を伝えた。

全校生徒の3割以上が通 講師に招き、車内案内のこ
学に利用する長井線を地域 つを学ぶなど準備を進めて
資源として生かそうと、山 きた。この日は「商品開発と
形鉄道（長井市）の社員を 流通」の授業を選択する3



荒砥高の生徒が企画したフラワー長井線のツアー＝長井市

見慣れた景色に新発見

年生23人が、県内外から訪れた約30人をもてなした。車内では4人がガイド役を務め、各駅の名前の由来や最寄りの観光スポット、車窓からの眺めを案内した。羽前成田―白兔間では西側に連なる葉山連山（通称・西山）、四季の郷―荒砥間では最上川に架かる最上川橋梁など、沿線の見どころを織り交ぜながら乗客を楽しませた。3年五十公野夏輝さん（18）は「調べていくうちに、見慣れた景色にも新しい発見があった」と話した。

荒砥高生とツアー一行は、バスに乗り換え、即身仏で知られる蔵高院や国指定重要文化財の観音寺観音堂（深山観音堂）などを巡った。荒砥高では吹奏楽部の演奏が歓迎。芋煮の振る舞いや文六地蔵を題材にした紙芝居の披露もあった。新潟市から参加した会社員伝川正之さん（57）は「高校生の視点で地域の良さを知ることができた」と笑顔を見せた。

駅周辺を散策するJR東日本のウォーキングイベント「駅からハイキング」の一環として実施した。

（野田達也）